
三題噺「海」「氷山」「悪の可能性」

アルシェ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題噺「海」「氷山」「悪の可能性」

【Nコード】

N1239P

【作者名】

アルシェ

【あらすじ】

推敲もプロットも何もない。
寝ぼけ頭で書いたヤバイ作品。
反省している。

(前書き)

ツイッターの三題噺メーカーで出てきた三つのワードを適当に料理した。

……やはり病院行って来る。

波の花が小さく、僕の足下で咲いた。

一步踏み込めば僕は海に落ちる事だろう。

ただ、強い潮風と、僕をここまで追い詰めた刑事はそれを許さない。

「刑事さん……僕に彼女を切痔にすることはできないでしょ？」

だって、彼女が回転寿司屋で切痔になった時、僕は店の女子トイレに不審者が入らないか見張っていたんだから」

僕にはアリバイがある。鉄壁とも言える、女子トイレでのアリバイが。

「確かに、半致死量21ピコグラムのわさびをお前が仕込むことは難しい。醤油皿にも、湯飲みにも、回っている寿司、彼女が食べた寿司ネタにも、わさびは検出されなかった」

「フフ、そうですね？」

波が一段と強くなる。それは雨のように降り注ぎ、僕の身体を濡らした。

後の彼は僕を追い詰めることなど出来ない。僕には自身がある。

「彼女が食べ始めたのは、僕がトイレに籠って十分後だ。店内の防犯カメラによると、彼女が皿や湯飲みに手を出したが五分後。なら、僕が関与できる隙などない。違いますか？」

「……ああ、お前が女子トイレに仕掛けたカメラの時刻とも一致したよ。お前が確実にトイレにいたのは明白だ。隙などない——でも言うと思ったか？」

「——何？」

一際跳ね上がった波が僕と刑事に覆いかぶさる。
僕は刑事の一言に笑みを一瞬消した。

「彼女の母親に聞いたんだがな、彼女、割り箸をなめなめするのが好きだというじゃないか」

刑事は一步、僕へと近づく。
僕の身体は、冷たく固まって動かない。

「とにかく箸の先から最後まで全て舐めないと気がすまないらしいな？
そして、カメラの映像にもそれが映っていた」

もう一步、刑事は僕との距離を詰める。

「お前の職業は割り箸製造会社の現場で働いている。その会社の割り箸を、件の回転寿司屋は仕入れている。これに因果関係を見出さないといえるか？」

お前は会社で製造した全ての割り箸に、半致死量21ピコグラムのわさびを塗布したんだろう！？」

刑事の一喝に、僕は前へと足を進めようとした。
けれど、僕の足は僕の言うことすら聞いてはくれない。

——ああ……悪の可能性なんて、こんなものか。

「証拠は、あるんですよ?」

悪あがきだとは思っている。けれど、お約束だ。

「これを見ろ」

踵に何かが当たる。

僕は振り返って取り上げたそれを見て、諦めたように息を吐いた。

「よく、撮れていますね」

手の中には、袋入りの写真。

四角く切り取ったその中に、製造中の割り箸を舐めてわさびを塗りたくる僕の姿があった。

力なく垂れ下がった腕は写真を緩やかに手放し、くたびれたように僕は後へ尻餅をついた。

「自首するんだ。今なら、間に合う」

肩に当たる刑事の手が優しく、僕は泣いて——しまう訳がなかった。

「ハハハ、刑事さん。あんたは一つ大きな勘違いをしているよ」

「何っ!?!」

そうだ、僕は試合に負けたかもしれない。でも、勝負には勝っている。

「あんたは気づかなかったかもしれないが、僕らが立っている場所、見てごらんよ」

顎で崖下を示すと、刑事は訝しげに近寄っていった。

「――まさか……そんな馬鹿なことが」

「僕はタダで終わらない。ここで捕まる気はさらさらないね」

愕然と立ち尽くす刑事の傍ら、僕は高らかに笑い続けた。

刑事の解説が始まって早三時間。

僕らの乗っていた地面はいつの間にやら公海へ。

だって、僕が指定した場所は氷山の真上だったのだから。

(後書き)

病院閉まってた……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1239p/>

三題噺「海」「氷山」「悪の可能性」

2010年11月25日02時15分発行